

食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会 平成21年4月27日（月）第44回会合議事録（抜粋）

7. 議事内容（抜粋）

○岡本専門委員 私はもっと全体的な話ですが、お願いします。

やはりリスクコミュニケーションをされるときには、先ほども出ていましたけれども、対象を考
えることが一番大事ではないかと思えます。透明性を高めるからと言って、何でもかんでも出せば
いいかと言えば、そういうわけではありません。何のためにその情報を出すのか。それによって相
手にどんなことを求めるのか。それを考えて出されないと、情報がただ出てくるけれども、誰にも
うまく受け取ってもらえていない、ということになりかねないのではないかと心配します。

○千葉専門委員

－前略－

それから、子どもに対する食の安全の啓発を今度地方でやるということをおっしゃいましたけれ
ども、これは非常にいいことだと思います。私は生まれてこの方ずっと東京にいたのですが、3年
前から、勤め先が栃木県大田原市というところになりまして、そんなに遠くはないのですが、
やはり情報の少なさ、不便さというのは非常に感じます。宇都宮に出るのも1時間以上かかります
し、食品安全委員会が県で何かやるという、消費者が対象であっても、行政官などや食品メーカー
などが大勢集まるというのは、機会のなさというのが1つの原因ではないかと思えます。

○阿南専門委員 運営計画についてですけれども、資料1-2の2ページに意見交換会の開催につ
いての方向性が出されていますがこれについて。平成20年度の実施が先ほど報告されましたが、
そこで見ますと、いかに消費者参加型で実施されるかということがポイントになると思えます。先
ほどの農薬のリスコミでは、事業者がとても多くて、全体の意見交換ですので、発言もしにくいわ
けです。消費者としての素朴な疑問も出しにくい。ですので、栃木県や大分県でやったようなグル
ープワーク、本当はここが知りたいのよというのを引き出すような、そしてそれについてみんなで
話し合っていくという方式を取り入れてやった方がいいと思えます。

－後略－

以上